

# VCS が LifeSize エンドポイントを含む H.323 コールをクリアするのはなぜですか。

## 目次

### [概要](#)

[VCS が LifeSize エンドポイントを含む H.323 コールをクリアするのはなぜですか。](#)

### [関連情報](#)

## 概要

この記事は、Cisco TelePresence Video Communication Server Expressway に関連しています。

### Q. VCS が LifeSize エンドポイントを含む H.323 コールをクリアするのはなぜですか。

A. この問題は VCS 通るソフトウェア バージョン 4.0 またはそれ以前を実行する実物大エンドポイントの間にあるおよび TANDBERG または Polycom エンドポイントではないその他のデバイスをかもしれませんコールに影響を与える ( を含む MCU およびゲートウェイ )。

問題は実物大コードの不具合が原因で発生します。不具合は実物大バージョン 4.1 で固定されて当然です ( 2009 ) 4 月の払出 予定。

対応策は VCS によってハングさせたコールを認識し、クリアすることを奪取された 時間数を増加するのでこれが必ずしも推奨されないが VCS のコール 存続可能時間設定の値を増加することです。

### 詳細情報

VCS は定期的に彼らがまだそのコールに加わっていることを確認するためにコールのエンドポイントを問い合わせます。それはエンドポイントの送信によってこれをエンドポイントが応答する必要がある IRQ メッセージします。関係者の何れか一つ以上はコールにもはやないことを VCS が信じれば、コールが「ハングを」残っていないようにコールをクリアします。VCS がエンドポイントを問い合わせる周波数は H.323 ページ ( VCS 設定 > プロトコル > H.323 ) のゲートキーパー セクションのコール 存続可能時間設定によって判別されます。デフォルトは 120 秒です。

バージョン 4.1 前の実物大エンドポイントは VCS によって送信される IRQ クエリーに応答しますが応答はによって現在あるコールについての情報が含まれていません ( H.323 V4 規格に反対 )。従って VCS はエンドポイントがコールにもはやあると考慮しないし従ってコールをクリアします。

これの対応策はネットワークで起こるコールの大半の長さより大きい値へ VCS ( VCS 設定 > Protocols > H.323 ) の H.323 コール 存続可能時間設定を高めることです。これはエンドポイントがこの時間の間にコールにあることの確認から VCS を停止します。

注: VCS の H.323 コール 存続可能時間設定を変更することは VCS がコールの H.323 すべてのデ

バイスを、ちょうど実物大エンドポイント照会し、VCS によってハングさせたコールを認識し、クリアするために奪取される 時間数を増加する周波数に影響を与えます。

## 関連情報

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)